

SHINGON HORONIC

色

IRO

は

WA

匂

NIO

へ

E

ど

DO

II

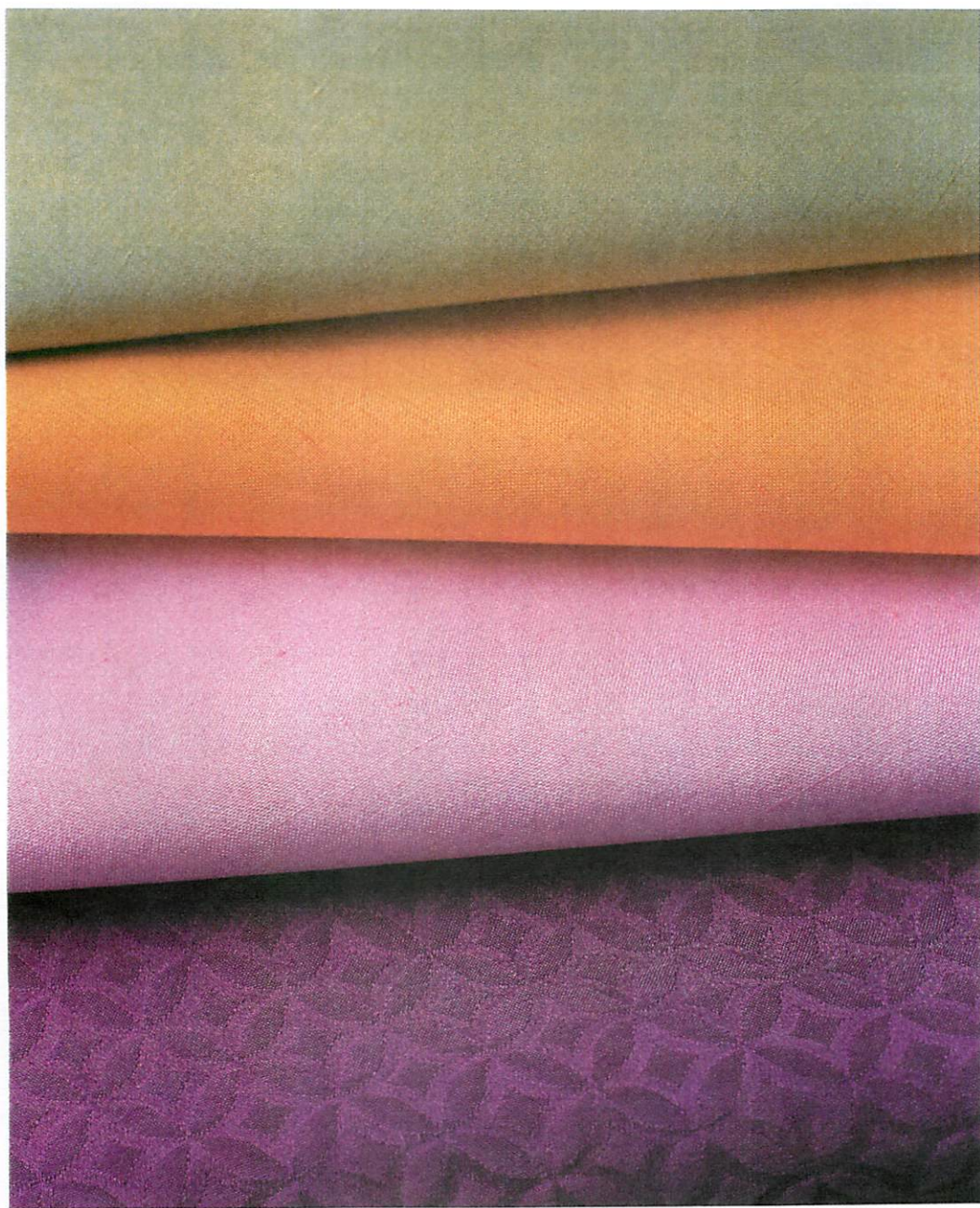


PHOTO 細野幸人

特集 和のとびら

平成十九年夏 巻九



風と太陽

暑い夏の日、木陰に入るとほっとします

その木陰に風が吹くと

さわやかな気持ちになります

地球温暖化が進んでいます

二酸化炭素の排出量を減らすことが急務です

日本の大平洋側の日照量は太陽光発電に最適です
また山岳部や沿岸部では風力発電や海洋波発電に
もってこいです

最近では家庭用の太陽光発電装置や
風力発電装置も良くなってきました

大自然の力を活用すれば温暖化も止まります



心の絵ことば

9



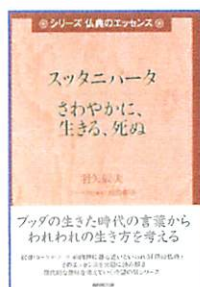
情報コーナー



14



13



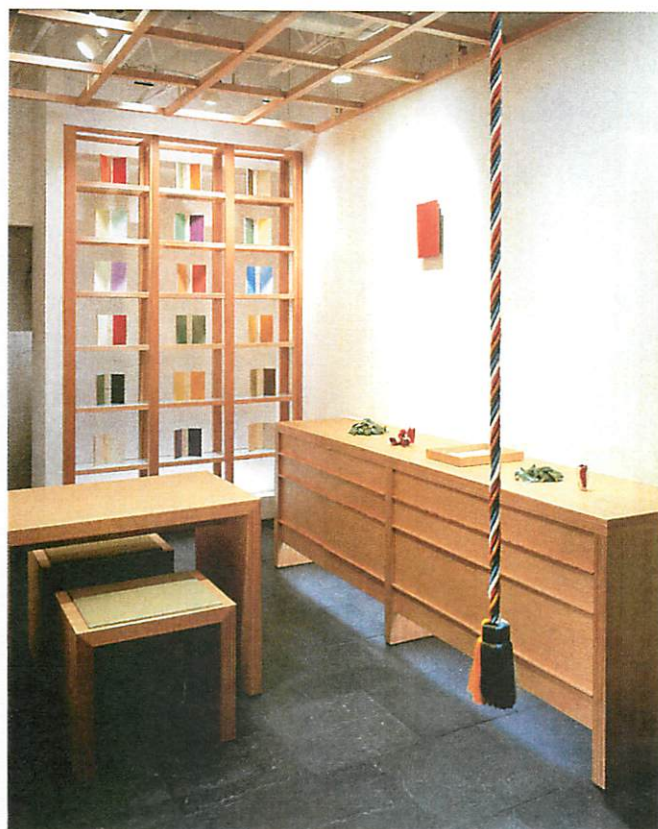
11

お大師さまの言葉

春の華は枝の下に落ち
秋の露は葉の前に沈む

道しるべ 日本ブーム

特集 和のとびら



ギンザコマツにオープンした『和の扉』

最近世界中で日本が注目されています。

今や『アニメ』『マンガ』『オタク』といった言葉は世界中でそのまま通用します。

和食のレストランも世界中に増え続けています。

海外の大きなイベントの立食パーティーのメイン料理がお寿司だったりします。

日本の文化が『クール』つまり洗練されたカッコ良さを持っていると世界が認めています。

しかし日本では海外ブランドが次々に日本に進出しています。銀座のメインストリートには海外ブランド店が自社ビルを建てさらに販路を拡大させています。

私は前々から銀座のメインストリートの一角には日本文化を代表する店舗が軒を列ねると楽しいと思っていました。

そこが日本の扉、和の扉、インターネットでいえばポータルサイトのように、そこを訪れると和のあらゆるジャンルにアクセスできるような店の連なり。



昨年銀座コマツのリニューアルオープニングに招かれました。

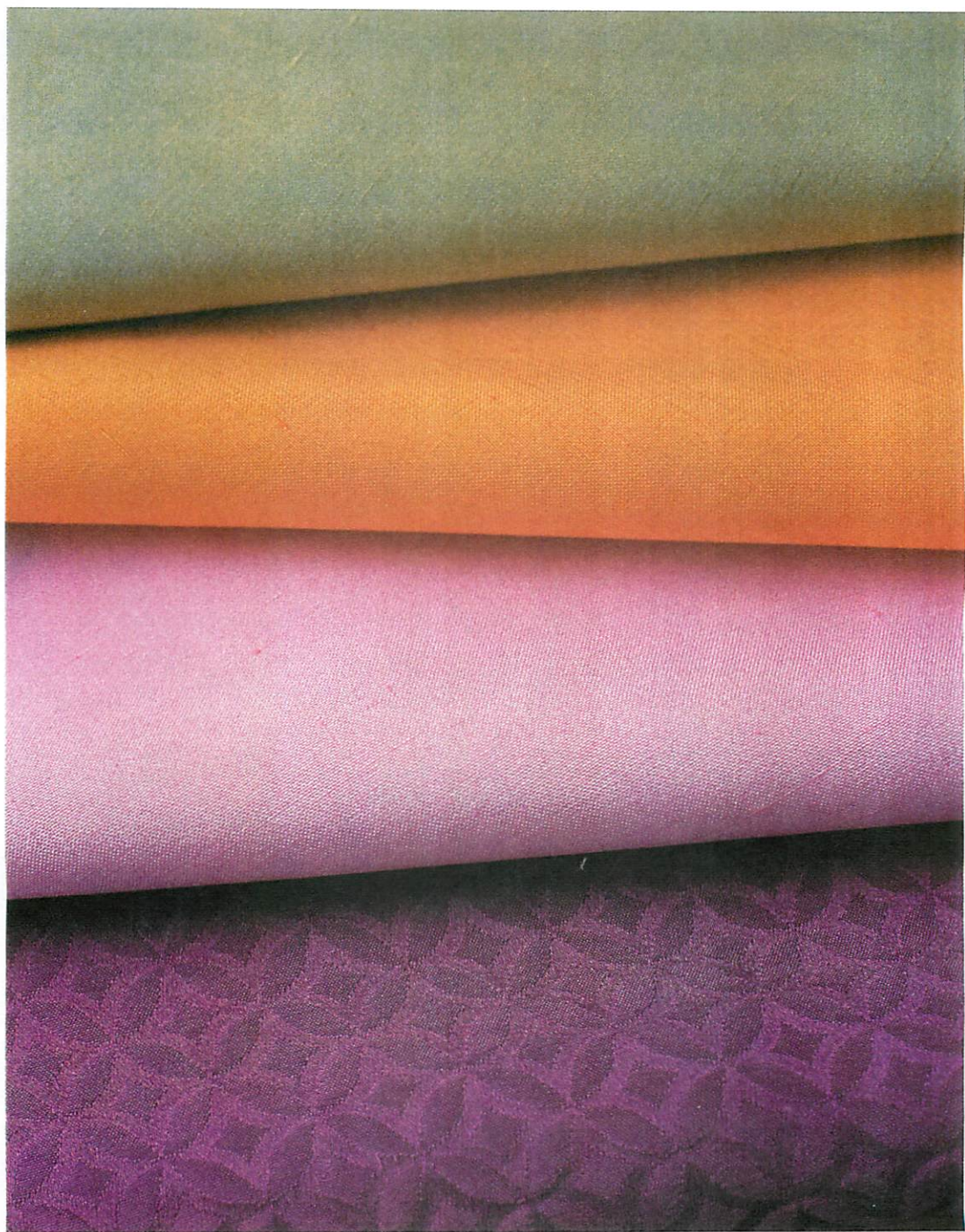
そしてその中に『和の扉』という美しい和紙や草木染めで織られた布を使った小物を扱うお店がオープンしました。同時に『日本の心 研究所』が設立されました。

上の写真は『和の扉』で扱う御朱印帳です。

既製品の御朱印帳に無い上品な表紙は草木染めの布です。しかも自分の好きな色にオーダーが可能です。

若草色や藍色、萌黄色、日本の伝統色には美しい品格があります。

御朱印をいただく際にこの綺麗な御朱印帳を出せば、お寺の札所の方と自然と話が弾むような気がします。



一色一色に深い味わいがある布

PHOTO 細野幸人



様々な印材を使って自分のオリジナルを作る事ができる

『色は匂へど』と名付けた本書ですが読者の方から「色が匂うってどういう意味ですか」と質問されました。

草の上に直接座ると着ている物に草の淡い緑が移ります。この色がある物から他の物に移ることを「色が匂う」と言います。その時同時に草の香りも移ります。

かつて日本人は色から様々なメッセージを受け取っていました。

その色を授けてくれた草が芽吹き、花を咲かせ、実をつけやがて枯れて地に帰っていく、そこに生命の無情や尊さまで感じ取っていました。

可憐な草花のはかない一生に時の移ろいも感じます。

日本を理解する大切なキーワードは「移ろい」です。

また色は命そのものであり神でありまた霊的な力をもっています。最近ではカラーセラピーといって部屋の色や着る服で心を調える医療もあります。例えば赤い色は気持ちを高ぶらせたり活性化しますし、青色は心を穏やかにします。

客の回転を速くしたいファーストフード店は店内を赤くしています。

印と袋



美しい糸を巻いた鉛筆



素焼きのかわらけに乗った苔玉

また赤色には邪を払う霊的な力が秘められているといわれます。

江戸時代病気になる紫の鉢巻きをしました。藍で染めた鉢巻きです。藍とそこから生まれる色には病を治す力が秘められています。

そして日本では草木に染められた色の異なる薄い布を重ねてその彩りを楽しむ「襲」^{かさね}があります。色を重ねる事で一つの色が様々な表情を見せていきます。そこから生まれるのは雅びな和の世界です。

『和の扉』の店内を眺めていると日本の色から浮かぶ様々なイメージが広がっていきます。

小さなお店ですがまさに店名に相応しい日本文化の扉です。

同じ階には『和の扉』開店と同時に設立された「小松 日本の心 研究所」があります。また日本の染色の第一人者吉岡幸雄氏のお店「染司 よしおか銀座」も同時にオープンし和の世界への奥行きをさらに深くしています。



『和の扉』からのメッセージ

日本の美意識を表現する方法は多様です。
その根底にあるのは身の回りの自然の変化に美しさや幸せを見い出す
「心」だと思いました。

小さなことに気づく敏感さと、変化を楽しめるおおらかな心
『和の扉』はその心への扉でありたい、と始まった色と素材のお店です。

奈良・平安と千年以上前からある技法で作られる和紙や布。
そして時代と共に変化しながら受け継がれてきた文字。
色と布、文字などを組み合わせて印や帳面、小物類をお届けしています。
またお客さまお一人お一人に喜ばれる物をお届けするため、できるだけ細かな
オーダーも受けられるオーダーメイドの店を目指しています。

銀座という土地は昔から新しいものと古い物が融合し、
共存することで磨かれてきたといわれます。
この土地で現代の生活の中にとりいれることのできる日本の心を提案したいと
日々努力しています。

『和の扉』 〒104-0061 東京都中央区銀座6-8-5 小松アネックス1F
電話 03-3571-8510 ファクシミリ 03-3571-8501
<http://www.wanotobira.jp>

P3 P4 P6 P8 PHOTO ナカサ&パートナーズ

「ころの絵ことば」『親鳥とひな』

絵 きらら

「見て、親鳥が卵を食べようとしてる。」

小さな子供が叫びました。

本当に親鳥は卵を鋭いくちばしで突いています。

「よく見ててごらん、親鳥は卵を助けてるんだよ。今まさにヒナが生まれようとしているんだよ。卵の中の小さなヒナの力ではあの固い卵の殻は割れないんだ。だからヒナが生まれようとする時、親鳥が外から卵を突いて助けてあげるんだよ。」

「フーン、でも親鳥はいつヒナがかえるかわかるのかな。」

「それは不思議だよね。ちょうど良いタイミングで突かないとヒナは死んじゃうからね。」

「ヒナが死んじゃうの。」

「そうだよ、卵を突くのが早すぎるとヒナはまだ生きる準備ができていないから外に出てきても生きられないんだ。」

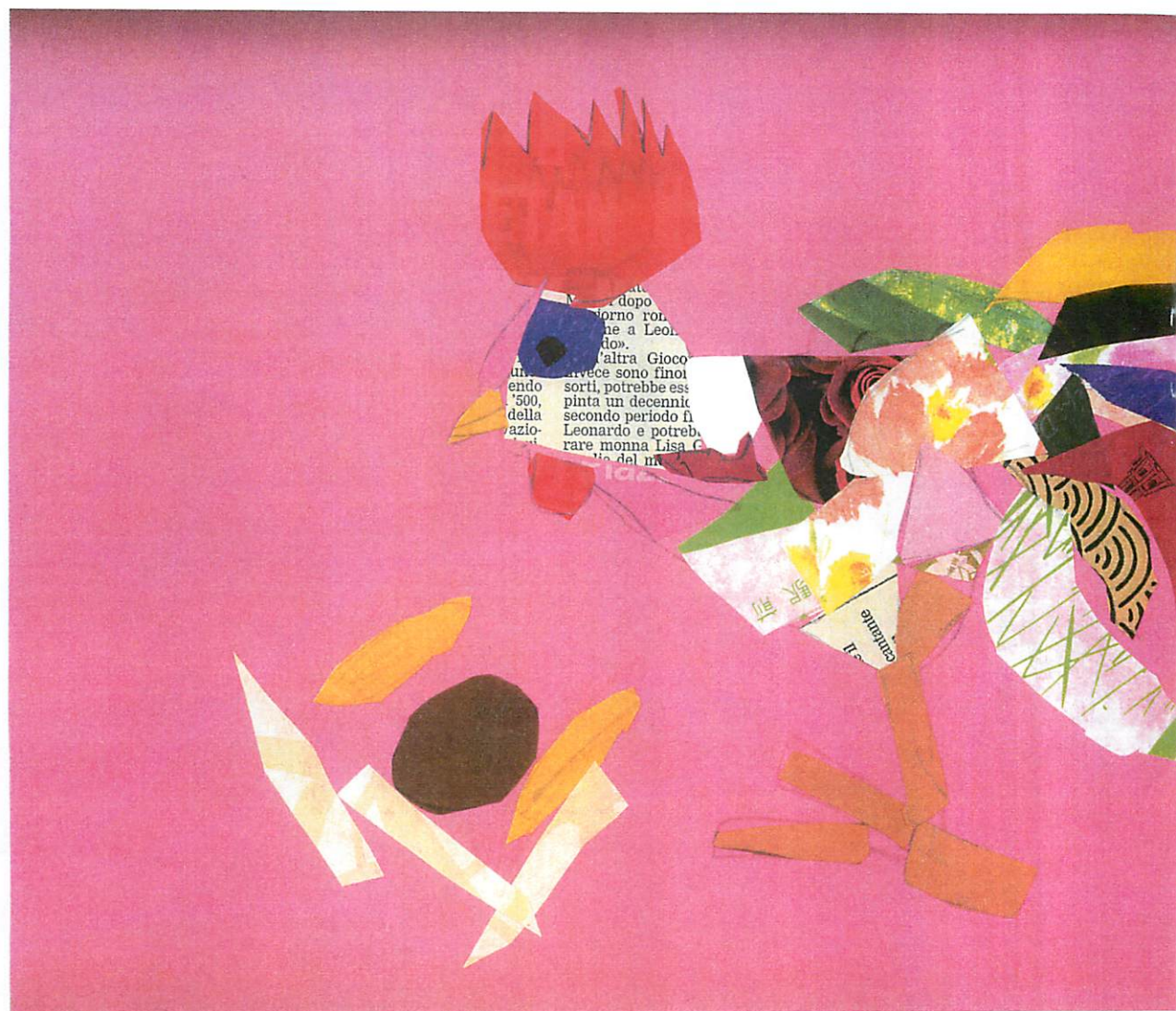
「じゃゆっくり突けばいいじゃない。」

「そうだね。でもね、今度は遅すぎるとヒナは卵の中から出られず苦しくなってやっばり死んでしまうんだ。」

「そうか、早すぎても遅すぎてもヒナは死んじゃうんだ。親鳥は死なないのね。」

「そうなんだ。だから親鳥の責任は重大だよね。」





「あつ、見て見て。ヒナが出てきたよ。可愛いね。」

「良かったね、可愛いヒナが出てきたね。」

「親鳥もヒナも笑ってるよ。」

「親鳥が外から突き、ヒナが中からつくタイミングが合うことを難しい言葉で卒啄^{そつたく}同時っていうんだ。先生が生徒を教えるのもコーチが選手を育てるのも師匠が弟子を仕込むものこのタイミングが大事なんだ。早すぎても遅すぎても、生徒も選手も弟子もダメになるからね。先生やコーチ、師匠の責任は親鳥と同じように重大なんだよね。」

道しるべ

日本ブーム

ジャパニズム

日本の文化が世界を席巻しています。

緑茶、寿司、和食などの食文化、宮崎駿監督の「となりのトトロ」や「千と千尋の神隠し」などのアニメ文化、村上隆に代表される現代アートやおたく文化。そして日本のマンガも世界中で読まれています。

日本のマンガが翻訳されて読まれているだけではありません。

ヨーロッパでは古典離れが進んでいます。しかしシェークスピア等の古典をマンガ化して出版し古典ファンの門戸を広げています。

マンガを読む海外の読者の反応は、マンガのきめ細かさに感動するようです。そして海外のコミックは言葉の数が非常に多いそうです。多いというより言葉や文字が無いカットはほとんどないそうです。

ところが日本のマンガは海外のコミックにくらべると言葉や文字が非常に少ないそうです。

しかし言葉が少なくても登場人物の心情がきめ細かく表現されているといえます。心情だけではなく、その場の気配まで表現できるのはマンガだけだそうです。

例えば公園のベンチが描かれている。でもそのベンチにはさつきまで人がいた気配を描くことができる。その表現力が魅力になっているといえます。

より少ない言葉でより多く深いものを伝える技は日本の文化の鍵です。お能もいかに少ない動きでより深い心情を観客に伝えるかが大切です。昨年の秋二つのお能を観ました。どちらも演目はたまたま「羽衣」でした。一つは歴史ある神社の境内の一角にある古い能楽堂で演じられました。実に表現力豊かな演能でした。水辺を天女が走るところで演者は足を小刻

みに早く動かし、最後に天女が天空に帰る場面では橋懸かりを何度もくくる回り揚げ幕の中へ本当に飛んで消えていきました。舞台の周辺の波の寄せる音や松林を抜けてくる風の気配と相まって感動を呼ぶ舞台でした。

ただ私が持っているお能のイメージとはずいぶん違っていました。

数週間後に美術館の前に作られた特設の仮舞台で同じ演目「羽衣」を観ました。

特設会場ですから橋懸かりも見立てですし、奥行きも浅く限られた舞台でした。

美術館前にはかなり広い面積の水盤があり、その水面から反射するゆらぐ明かりが幽玄な雰囲気を出していました。

客席と舞台の間には水盤が広がっています。観客から演者まではかなり距離があるので舞台全体が良く見

渡せます。

それだけに演者の動きも良く分かりました。

お能独特の実にゆっくりとした足の運び、その一步一步に思いが秘められていました。無駄な動きを一切排除した微妙な面の動き。その中に天女の心の揺らめきが伝わってきます。最後に天女が飛び去るシーンは圧巻でした。

天女が虚空からの見えない力で引き上げられていく様でした。

天女は天上世界から来たのではなく異次元の虚空から地上に舞い降りまた異次元の虚空に消えてゆく。その異次元の虚空までイメージできる素晴らしいお能でした。

これほど感動したお能はありません。

徹底的に無駄な動きを取り去り極限まで制約した動きのなかからしか

表現出来ない美しさと深さを味わうことが出来ました。

そしてこの無駄を徹底的にそぎ落とすことが日本の美意識の原点だと思いました。

その後NHKの『プロフェッショナル』でカーデザイナーの奥山清行氏の話を見ました。世界最高峰のカーデザイン事務所イタリアのピニンファリーナでデザインの総責任者として陣頭指揮してきた奥山氏は現在日本でデザイン会社を立ち上げています。奥山氏は日本の美意識は無駄をそぎ落とすことにあると語っていて思いを同じにしました。

お能の無駄をそぎ落として、その限定された動きの中でその場の気配や心の動きや変化を伝える技法は、もしかしたら日本のマンガの原点でもあり、日本の工業デザインの鍵にもなっているような気がします。



『フェラーリと鉄瓶』

奥山清行著 PHP

お大師さまの言葉

春の華は枝の下に落ち

秋の露は葉の前に沈む

逝水はとどまること能わず

廻風幾ばくか音を吐く

弘法大師

春美しく咲いた花もやがて散り、露は陽光の前に消えます。流れる水はとどまることができず、疾風はその風の音とともに過ぎ去っていきます。

それが自然の摂理です。

生死は仏教の根源的なテーマです。

お大師様は若き日の著作の中で「生死海之賦」という生死についての名文を残しています。

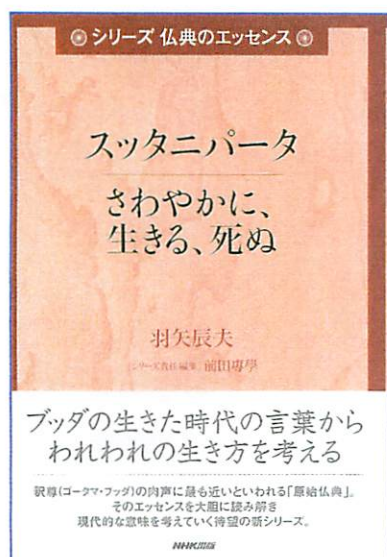
だれでも自分の死を考えることはつらく悲しいことです。死のことなど考えないで、楽しく生きることだけ考えれば良いのでしょうか。

どんなに富みを貯えても社会的な地位を得ても死は必ずやってきます。

その「死」としっかりと向き合うことができると今の生が実に尊く温かく美しく感じられます。

死と向き合えると自然と他者への思いやりが生まれてきます。

そしてこの宇宙に生があることの不思議が見えてきます。



『スッタニパータ』

さわやかに、生きる、死ぬ』

羽矢辰夫著 NHK 出版

とても分かりやすい文章で仏教の原点がわかる一冊。



『いつもの野菜で薬膳する!』

加藤奈弥著

講談社

加藤先生の料理はとてもシンプルです。ですからあっという間に出来上がってしまいます。しかし味はとても美味しく見た目も美しくいただくのが楽しめます。

シンプルだからこそ野菜の持つ味わいやパワーが生かされています。

そして何より素晴らしいのは薬膳になっていることです。夏には心臓の働きを助け、身体の余分な熱や水分を取り去ってくれます。猛暑が予想されるこの夏からぜひ皆様も薬膳にチャレンジを!



『本日の水木サン』

水木しげる著

草思社

今春、水木氏原作の『ゲゲゲの鬼太郎』が実写版で映画化され公開されました。

水木氏は戦争中は陸軍の二等兵としてニューギニアで戦い左腕を失ってしまいます。

戦後は紙芝居を描いたりして生活しやがて妖怪マンガの第一人者として売れっ子になります。

その人気の原点は水木氏の独特のユーモア溢れる視点にあります。異界つまり妖怪の住む世界から見ると日々あくせく生きる現世の人々が滑稽に見えるようです。

水木氏の日々の言の葉を集めた本書を読むと思わず笑みがこぼれます。



『江戸時代の先覚者たち』

山本七平著

PHP

今漸く日本経済が再び上を向きはじめたと言われます。しかし日本経済がただ発展すればいいわけではありません。かつての経済成長期には利益を追求する日本人の姿は「エコノミックアニマル」という不名誉なレッテルを貼られました。

「近代への遺産—産業知識人の系譜」という副題の本書は現代の経営者や、これから起業しようとする人々には必読の一冊。江戸時代に優れた経済思想の先駆者が存在しました。

ただ理論を語るのではなく実際に藩の経営を立て直してその実効性を証明しています。



次号特集 世界を変える人々
チェンジメーカー

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI

EDITORIAL OFFICE CHOEN-JI S.H.C

Making Mechanic Printing KORINKAKU

〒157-0076 東京都世田谷区岡本 1-20-1 電話 03-3707-1228 ファクシミリ 03-3707-1221

Shingon Horonic Irowanioedo 2